

情報処理学会の研究動向 —コンピュータと教育研究会を中心にして—

Research theme of IPSJ —Recent Trends of Computer and Education Research Group—

立田 ルミ^{*1}

Lumi Tatsuta

Email: tatsuta@dokkyo.ac.jp

本稿では、情報処理学会の最近の研究テーマについての資料を提供する。情報処理学会は、2019年3月末現在で、正会員15,492名（名誉会員39名を含む）、学生会員2,728名、ジュニア会員1,642名、賛助会員258社（589口）の大きな学会である。しかし、以前は正会員が3万人以上であったこともあり、現在はジュニア会員（高校生以下）の会員を募集しているところである。いずれにしても大きな学会であるので研究テーマは多彩で、研究テーマによって19分野の研究会が開催されている。

本稿では、CE研究会の研究テーマとSSSシンポジウムの研究テーマの変遷について述べる。また、これらの研究会から推薦された論文を主として、博士号を取得した推薦博士論文のテーマを紹介する。

In this paper, we provide data on recent research themes of the Information Processing Society of Japan (IPSJ). As of the end of March 2019, the Information Processing Society of Japan has 15,492 regular members (including 39 honorary members), 2,728 student members, 1,642 junior members, 258 supporting members (589 members). However previously there were more than 30,000 regular members, so now we are recruiting junior (high school and below) members.

In any case, since it is a large academic society, there are various research themes, and 19 research groups are held depending on the research theme. This paper describes the transition of the research theme of the CE Study Group and the research theme of the SSS Symposium. In addition, we will introduce the themes of recommended doctoral dissertations with a doctoral degree, focusing on theses recommended by these workshops. Show more in this paper, we will mainly introduce papers that have obtained doctoral degrees from those recommended by these research groups.

*1：獨協大学情報学研究所客員研究員
獨協大学名誉教授

1. はじめに

情報処理学会は1974年に学会として設立され、大学等の教員と企業とが会員になっている学会組織としては特殊な学会である。会員数は30,000人を超えていた時期もあるが、現在の会員数は正会員15,492名（名誉会員39名を含む）、学生会員2,728名ジュニア会員1,642名、賛助会員258社（589口）となっている。会員数の減少に伴い、会費が無料のジュニア会員を応募している。2018年に早稲田大学で行われた全国大会ではジュニア部門の発表会も行われ、部門での論文賞を発効している。そして、会長は教員と企業と1年交代で行うことになっている⁽¹⁾。

研究会はグループにわかれており、研究会費を払えばどのグループにでも複数で属することができる。

2. 研究会

情報処理学会の研究会は表1に示すように、3つの領域にわかれている⁽²⁾。

表1 研究会

領域	研究会名	利用 SNS
コンピュータサイエンス (CS)	データベースシステム (DBS)	Facebook
	ソフトウェア工学 (SE)	Twitter
	システム・アーキテクチャ (ARC)	Facebook
	システムソフトウェアとオペレーティングシステム (OS)	Facebook
	システムとLSIの設計技術	
	ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	Twitter
	プログラミング (PRO)	
	アルゴリズム (AL)	
	数理モデル化と問題解決 (MPS)	
	組込みシステム (EMB)	Facebook Twitter
情報環境領域 (IE)	マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	Facebook
	ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	Twitter
	情報システムと社会環境 (IS)	
	情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	Twitter
	オーディオビジュアル複合情報 (AVM)	Twitter
	グループウェアとネットワークサービス (GW)	Twitter Facebook
	ドキュメントコミュニケーション (DC)	
	モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL)	Twitter Facebook
	コンピュータセキュリティ (CSEC)	

メディア知能情報 (MI)	高度交通システムとパーベイシブITS)	Facebook
	ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)	Twitter Facebook
	自然言語処理 (NL)	
	知能システム (ICS)	
	コンピュータビジョンとイメージメディア (CVM)	
	コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学 (CG)	Twitter
	コンピュータと教育 (CE)	Twitter
	人文科学とコンピュータ (CH)	Twitter
	音楽情報科学 (MUS)	Titter
	音声言語情報処理 (SLP)	
	電子化知的財産・社会基礎 (EIP)	Facebook
	ゲーム情報学 (GI)	
	エンタテインメントコンピューティング (EC)	Twitter
	教育学習支援システム (CLE)	Twitter
	アクセスビリティ (AAC)	Facebook
	ネットワーク生態学研究グループ (NE)	
	会員の力を社会につなげる研究グループ (SSR)	Facebook
	除法処理に関する法的問題研究グループ (LP)	
	ビッグデータ解析のビジネス実践活用研究グループ (PBD)	

各研究会が設立された年度は異なり、研究会費も統一されていない。研究会の略称は、英語の頭文字を利用しているものもあれば、最初の3文字を使っている研究会もある。また、毎年研究会年会費を見直し、その結果最近では会費が値上げされることが多くなっている。筆者が現在属しているのは、コンピュータと教育研究会 (CE研) である。CE研究会の幹事 (会計担当) をしていた2004年4月から2008年3月までは、研究会年会費を支払っていた会員は約800名で、会費値下げをしたこともある。現在は委員ではないので、会員数は不明である。

表2に研究会参加費 (資料1冊につき) を示す⁽³⁾。

最近追加されたオープンサイエンスと研究データマネジメント研究会は、研究グループとして活動

表2 CE研究会参加費

項目	参加費
CE研究会登録会員	無料
情報処理学会学生会員	500円
情報処理学会個人、賛助会員 (学生会員を除く)	1,500円
非会員学生	1,000円
その他	2,500円

していたが、研究会に格上げされた。研究グループとして学会の理事会で研究会として認められているものもある。2019年度は、データサイエンスを扱っているグループが幅広く活躍するようになってきている。

3. 獨協大学との関わり

筆者が上述のようにCE研究会の幹事をしていた関係で、獨協大学で情報センターおよび情報学研究所との共催で、過去に4回研究発表会を開催している。どのような研究テーマで研究発表会が行われたかの記録は、研究会のメンバーが運営しているサーバー上に掲載されている⁽³⁾。

3.1 第80回研究発表会

ここでは、第80回の研究テーマについて述べる。

最初に獨協大学で行った研究発表会は、2005年6月18日(土)10:30~16:45であった。会場は、中央棟3階の大会議室であった。当時、大きなスクリーンとプロジェクタが設置されているのは、現在全学教授会が行われている場所であり、お昼休みに行われる委員会をすぐ横にある部屋(部局長会議が行われる部屋)で行う為であった。部局長会議が行われる部屋は、プロジェクタだけでなく、ネット回線や電源などの利用が可能であった。

研究発表のテーマを表3に示す。

本稿では、発表者ではなく研究テーマを主としているので、研究発表者の名前を割愛した。

表3 第80回研究会研究内容

発表時間	研究内容
10:30-11:30	ソフトウェア開発グループ演習教育の動向
	丁寧に文字を書く習慣の定着を目的とした教育用手書き日本語入力ツールの提案と試作
13:30-15:00	大規模司書講習における『情報検索演習』の実践について
	対面での応答を重視した英語学習活動と発話収録装置お試作と試用
	P2P技術を利用した教育支援システムSOLAR-CATSの機能
15:15-16:45	教科書にみる教科「情報」の教育現場における現状と課題
	新入生の大学以前の情報処理教育に関する調査と一般情報処理教育
	放送大学における情報教育

表3から分かるように、発表内容はシステム開発と情報処理教育となっている。発表時間は20分、質疑応答と入れ替えを含めて10分、1グループ30分である。発表論文は査読されていないので、申し込み期限までに提出されたものとなっている。この

時期は、春学期が始まったばかりの多忙な時期であるため、論文投稿者は比較的少ない。

研究発表会の後、中央棟10階のホールで懇親会を行っている。参加者は約50名で、鹿児島、福岡、北海道、長野からの参加者があった。10階のホールは、マイクの設備も整っており舞台があるので、管弦楽部の卒業生にカルテット演奏をお願いした。このような懇親会は、以降の獨協大学での懇親会に生かされている。

ED-MEDIAのカンファレンス紹介でも書いたが、主催大学ではいろいろなイベントが用意されており、参加者は主催大学特有のイベントに参加し、研究者の交流の場を作っている。

3.2 第90回研究発表会

ここでは、第90回の研究発表会の研究テーマについて述べる。研究テーマを表4に示す。

表4 第90回研究発表会研究内容

発表時間	研究内容
13:00-14:00	英語学習発話データの書き起こし
	履歴情報を用いた英語学習ツールの開発
14:20-16:20	「新・試作教科書」の全体構成と水準について
	「新・試作教科書」におけるネットワークの扱い
	「新・試作教科書」におけるプログラミングの扱い
	「新・試作教科書」における情報社会//情報倫理の扱い
	「新・試作教科書」における情報システムの扱い
16:40-18:10	新・試作教科書「情報IIIx」と他分野との関連
	高校普通教科「情報」新・試作教科書(情報処理学会初等中等教育委員会版)の検討
	大学におけるICT支援
16:40-18:10	動的視覚による論理内容の瞬間教育
	モデル化とシミュレーションを楽しく学ぶためのソフトウェア開発

表4からも分かるように、情報処理学会として高校普通教科「情報」新・試作教科書を作成し、どのような観点から作成したかについての特別セッションが設置された。このセッションの発表時間は10分で、質疑応答は5分であった。

研究会場は新築された天野記念館2階で行われたので、懇親会も2階の教室で行った。

3.3 第115回研究発表会

この研究発表会は、2012年7月7日に表5のようなテーマで研究発表を行った。この時は、研究会ではなく研究発表会と名称が変化している。また、発

表5 第115回研究会研究内容

発表時間	発表内容
13:10-15:10	文系大学におけるICT支援—獨協大学の取り組みから—
	特別支援学校教員が必要とするデジタル教材の情報表示に関する調査と分析
	大学構成員都合データ管理—システム構築と運用体制の整備
15:30-17:00	Windows環境下における出席管理システムの構築と評価
	プログラム自動生成手法における個体の多様性記事の提案
	小コンテスト形式の初級C演習における教師支援—実行テスト系列に即したプログラミング問題のオーサリングツール—

表会当日、Twitterでハッシュタグが設けられている。

115回研究発表会は新設された東棟の3階で研究発表会を行い、情報学研究所の研究員が受付と会計を交代で担当した。情報学研究所と初めて共催にした結果、懇親会は無料とすることが可能になった。しかし、当日は7月7日で20時からキャンパス内ライトダウンされたため、懇親会の時間を17:30から19:30と早めることになった。

3.4 第144回研究発表会

この研究発表会は、2018年3月17日と18日の2日間に亘って行われた。現地委員として堀江郁美情報学研究所が担当し、新設された西棟で研究発表会を行った。情報学研究所との共催とし、情報学研究所から大床主任研究員を中心に受付業務と2教室のシステム担当および司会を研究員が担当した。研究発表会の時期が3月であったので、恒例の2日間の開催となった。テーマを表6に示す。

表6 第144回研究発表会研究内容

発表時間	発表内容
10:00-12:00	360度VR体験学習の評価手法の開発
	音楽科におけるプログラミング的な協調創作活動の効果—自己肯定感に注目して—
	適応型単語リストを用いた双方向対話型自立学習支援システムの開発
13:00-14:15 学生セッション(1)	外国語学区就社の発話の応力レベルに応じた会話訓練が可能なシステムの開発
	ループリックをWebサイトで作成・共有できる環境「ループリックバンク」の開発
	過去の学生レポート分析に基づくフィードバック文章作成方式
13:30-14:30	授業中の教師の言葉に対する参観者の気づきを記録・閲覧できるシステムの開発(学生奨励賞受賞)
	授業者の授業に対する参観者の気づきを記録・閲覧できるシステムの開発(学生奨励賞受賞)

13:00-14:15 学生セッション(2)	Scratchプログラム学習過程の可視化
	プログラミング学習環境「BitArrow」における採点支援機能
14:25-15:50 学生セッション(3)	IcigoJam用ビジュアルブロックプログラミングの開発とプログラミング体験教室の実践(学生奨励賞受賞)
	ボードゲーム戦略を題材とする応用Javaプログラミング演習と実践—レイティング指標としての重付勝点度の導入によるランキングの精密化—
14:25-15:50 学生セッション(4)	スリランカの初等中等・一般情報教育と情報入試・検定
	相互評価とフィードバックを用いたプレゼンテーション学習方式
15:50-18:20	小学校プログラミング教育における運動の導入による言語・知的技能の学習効果と魅力の向上
	獨協大学における新教室システムの実態と問題点
	サーベイ報告：情報処理科の利用システムにおけるORCID対応の必要性と重要性
	Excelのレポート課題における学生不正防止システムの提案
3/19 9:00-10:15 学生セッション	データベース作成実習での利用を想定したWebインターフェース作成ツールの提案
	情報システムにおけるデータベースの仕組みを学ぶ共通教科「情報」授業の提案と実践
	テンプレートマッチングを用いた学習進捗表示システムの開発
10:30-12:00	A design and prototype of a semi-automatic scoring system for English exams
	グループ形式で行う英語学習を支援するWebシステムの開発
	学校間連携・文理融合チーム編成でのアプリケーション開発教育の実践
13:30-14:30	ドリトルを用いた台湾—日本間の国際理解教育
	小学校におけるプログラミング教育で育てる資質能力を考慮した指導内容の検討
14:45-15:55	Scratchプログラム教材を教員教育に活かす試み—算数数学教育での実践例—
	文章作成とレビュー効果の測定と分析
14:45-15:55	作文教育におけるツール活用とアクティブラーニングの考察
	時間を考慮した文章編集操作と文章評価の関係分析

表6からも分かるように、多くの論文投稿があり、1教室ではとてもプログラムに収まらないので、パラレルセッションになった。この研究会の共催を引き受けて下さった山田恒久情報学研究所所長と大床主任研究員に感謝する次第である。

各研究会では、授業がない時期にシンポジウムが

開催される。研究会の数が多いので、シンポジウムも様々なものが開催され、それらがネット上で公開される。

ここでは、コンピュータと教育研究会のメンバーの一部が中心になって行っている SSS (Summer Symposium in S のつく場所) について述べる。

SSS は、元慶応義塾大学大岩元教授と長野大学和田勉教授と駒谷昇一奈良女子大学教授が中心になって 1999 年に始まったものである。第 1 回は、信州 (Sinshu) 東筑馬郡で行われた。筆者は、関西学院大学の三田 (Sanda) にある SSS2002 に論文を投稿し、アクセプトされたことから参加するようになった。その後毎年参加発表を行い、SSS2005 の後志 (Siribeshi) にあるヤマハリゾートキロロでプログラム委員長および会計を担当した。2泊3日で行うシンポジウムは、朝9時から夜9時まで発表が行われるため、知力と体力が必要である。

3.5 SSS99 から SSS2001

ここでのプログラムの情報は、現在アクセス不能となっており、開催場所と日程および大会委員長、実行委員長、プログラム委員長の担当者について表 6 に示す。

筆者はまだ参加していなかったため、詳しい情報については、不明である。表 7 に、SSS99 から SSS2001 までの開催場所と担当者を示す。

表 7 SSS99 から SSS2001 までの開催場所と担当者

年度	開催場所	大会委員長	実行委員長	プログラム委員長
SSS99	Sinsyu 信州・東筑馬郡酒井村	大岩 元 慶応大学	和田勉 長野大学	駒谷昇一 NTT ソフト
SSS2000	Sinsyu 信州・戸倉温泉	武井恵雄 帝京大学	堀内征治 長野高専	松浦敏夫 大阪市立大学
SSS2001	Sinsyu 信州・戸倉上田温泉	堀内征治 長野高専	和田勉 長野大学	香川修見 大阪学院大学

最初のシンポジウムでは、慶応大学の大岩元教授が大会委員長として務められたが、慶応大学を退職後もほぼ毎年シンポジウムに参加されている。筆者は、大岩元教授に委員にならなおいと声をかけられたのが、コンピュータと教育研究会委員になったきっかけである⁽⁴⁾。

当時は、他学会の理事、評議員、論文編集委員を務めていて多忙であった。しかし、情報処理学会は 1974 年から会員として全国大会等で発表していたので、学会の軸足を情報処理学会に置くことにした。

3.6 SSS2002 から SSS2011 まで

ここでは、紙面の関係から筆者が参加発表した SSS2002 から SSS2011 までの 10 年間の概要について述べる。

SSS2002 から SSS2011 までの実施場所と組織運営について、表 8 に示す。

表 8 SSS2002 から SSS2011 までの実施場所と組織運営

年度	開催場所	大会委員長	実行委員長	プログラム委員長
SSS2002 Sanda	関西学院大学神戸三田キャンパス関西学院大学千刈セミナーハウス	雄山真弓 関西学院大	中條道雄 関西学院大	中西通雄 大阪大
SSS2003 Shizuoka	静岡・浜松スズキ荘観月園	川合慧 東京大	阿部圭一 静岡大	西田知博 大阪学院大
SSS2004 Shinshu	信州・戸倉上山田温泉ホテル清風園	川合慧 東京大	和田勉 長野大	竹田尚彦 愛知教育大
SSS2005 Siribeshi	後志ヤマハリゾートキロロ	川合慧 東京大	岡部成玄 北海道大	立田ルミ 獨協大学
SSS2006 Sengokugahara	仙石原駿台箱根セミナーハウス紅雲荘	神沼靖子	辰己丈夫 東京農工大	並木美太郎 東京農工大
SSS2007 Suzuka	鈴鹿三重県勤労者福祉センター希望荘	奥村晴彦 三重大	田中雅章 鈴鹿短期大	中野由章 千里金蘭大
SSS2008 Samdo	三徒(済州)済州大学済州オリエンタルホテル	和田勉 長野大	中野由章 千里金蘭大	兼宗進 一橋大
SSS2009 Saga	佐賀・唐津国民宿舎虹の松原ホテル	松浦敏雄 大阪市立大	林敏浩 香川大 渡辺健次 佐賀大	金子敬一 東京農工大
SSS2010 Sibukawa	渋川・伊香保温泉雨情の湯森秋	佐渡一広 群馬大	渡辺博芳 帝京大	辰己丈夫 東京農工大
SSS2011 Setouchi	瀬戸内岡山いこいの村	角田博保 電気通信大	長瀧寛之 岡山大	西田知博 大阪学院大

表 8 に示したように、大会委員長は 1 年で交代することが多いが、東京大学の川合慧教授は 3 回連続で委員長を引き受けておられる。筆者は SSS2003 終了後に浜松で川合委員長等と昼食をともにしたことから、川合慧委員長の下で委員を引き受けること

になった。なお、元情報学研究所主任研究員であった堀江郁美教授は、東京大学大学院時代に山口和紀ゼミと川合慧ゼミの合同ゼミを受けたという間柄であったそうである。あちらこちらの研究活動で、人の繋がりが広がることを実感する。

宿泊を伴うシンポジウムは、100人以上が参加するので宿泊場所を探すのが大変である。また、先生方の研究費が潤沢にある訳ではないので、なるべく費用を抑えなければならない。さらに講演をお願いする場合もあり、その費用は参加者から徴収したのから出さなくてはならない。しかし、このようなシンポジウムの役職を引き受けることは、大学で役職を引き受ける場合に非常に役立つ。さらに任期つきの教員の場合、次の行き先が決まったり、非常勤講師から専任教員に紹介されたりする場合もあるということも体験してきた。

表9に、SSS2012からSSS2019までの実施場所と組織運営を示す。

2012年からは、CE研究会だけでなく、教育学習支援システム研究会（CLE）と合同でSSSの運営が行われるようになった。メンバーは兼ねている人もいるが、研究会委員会は別々に行われている。筆

表9 SSS2012からSSS2019までの実施場所と組織運営

年度	開催場所	大会委員長	実行委員長	プログラム委員長
SSS2012 Shizuoka	静岡・清水三保園ホテル	鈴木直義 静岡県立大学	湯瀬祐昭 静岡県立大	竹村治雄 大阪大
SSS2013 Sizukuishi	雫石休暇村岩手網張温泉	竹村治雄 大阪大	高木正則 岩手県立大	長瀧寛之 岡山大
SSS2014 Shodoshima	小豆島オリピアン小豆島	西田知博 大阪学院大	富永浩之 香川大	角田博保 電気通信大
SSS2015 Sakaiminato	境港境港マリーナホテル	鈴木貢 島根大	中野由章 神戸市立科学技術高等学校	林雄介 広島大
SSS2016 Shin-Hakodate-Hokuto	新函館北斗グリーンピア大沼	片桐恭弘	大場みち子 公立はこだて未来大	永井孝幸 京都工繊大
SSS2017 Sakura	佐倉ウィッシュンホテル・ユウカリ	辰巳丈夫 放送大	佐久間拓哉 文教大	重田勝介 北海道大
SSS2018 Shiranui-sea	不知火海湯の児海と夕焼け	中野裕司 熊本大	久保田真一郎	西田知博 大阪学院大
SSS2019 Sasara	讃良群(河内國)大阪電通大学	都倉信樹 大阪電気通信大	兼宗進 大阪電気通信大	長瀧寛之 大阪電気通信大

者はSSS2002から参加発表を重ね、韓国のチェジュ島まで行くことが出来た。

このように、CE研究会もSSSシンポジウムも長く続いており、現在も若手の後継者が続けて運営委員を引き受けておられる。

4. 博士論文で扱われたテーマ

ここでは、最近の研究テーマを知るため、各研究会から紹介された優秀な博士論文のテーマについて述べる。

学会の優秀論文も博士論文も、各研究委員会の行っている分野の論文数に応じて推薦し、それらの論文が理事会で決定される。勿論、全国大会やFIT(Forum on Information Technology)で発表された論文も論文本数に入る。特にFITは、査読付き論文もあり、この中から次のような表彰が行われる。

筆者も何度か査読を行ったが、査読項目の中に以下のような賞に値するかを記述する項目がある。

- 1) 船井業績賞：船井情報科学振興財団からの賞
- 2) FIT 船井ベストペーパー賞
- 3) FIT 論文賞
- 4) FIT ヤングリサーチャー省
- 5) FIT 奨励賞

これらは、すべて2002年からスタートしている⁽⁵⁾。FITの論文査読も行ったことがあるが、若い研究者が励みになるようなコメントを出すことが大切だと考えている。

4.1 博士論文のテーマ

上述のように、各研究委員会から博士論文を推薦する。今回、CE研究会からは学位推薦論文はなかったのが残念であるが、今までにCE研究会から推薦論文が出ている。

ここで、表10に研究会領域と研究会名（略称）および学位論文題目について示す⁽⁵⁾。

表10 各研究会から推薦された学位論文題目

領域	研究会	学位論文題目
コンピュータサイエンス	DBS	A study on High-Level Cognitive Understanding of Images towards Language
		クラウド環境における効率的なグラフクエリ処理に関する研究
	ARC	Power efficient Body Bias Control for Ultra Low-power VLSI systems
		Theoretical design Methodology for Practical Interconnection Network
		Research on Low Power CNN Implementation with Approximate Arithmetic for Edge Inference

情報環境領域	OS	Making GPUs First-Class Citizen Computing Resources in Multi-tenant Cloud Environment
		オペレーティングシステムのソフトウェアバグからアプリケーションの実行を保護する手法に関する研究
	SLDM	An MTTTF-aware Design Post-Silicon Validation Methodology for Adaptive Voltage Scaling
	HPC	最先端高性能計算システムにおける第一原理電子動力学シミュレーションのコードデザイン
	EMB	車載制御マルチコアシステムにおけるマッピングとランタイムコード生成システム
		高信頼性システム向けリアルタイムコード生成システム
	HCI	Expecting Interaction using Hand Motor Skill and Physical Objects on Capacitive Touch Surfaces
		知識創造活動過程で揮発する知識断片の収集とその活用に関する研究
		運動予測に基づく視覚的運動と自己運動との関連性の認知メカニズムについて
	GN	日常生活における生体計測に基づく注意・情動特性の顕在化に関する研究
	MBL	A study on Prediction-based Autonomous Wi-Fi Channel Management for Interference Mitigation in Urban Environment
		Study on Human-in-the-loop Sensing in Urban Environment analysis
		Design and Analysis of Memory Access Pattern Protection
	CSEC	制御システムにおけるドメイン間連携によるサイバー攻撃対策に関する研究
		Taint-based Analysis Technique against Evasion Malware
		Data Transaction Infrastructure for Safe and Flexible Sharing fo Private Information
	UBL	Sharpening Egocentric Experiences with Wearable Cybernetic Interfaces
		Design and Implementation of Participatory Crowd-sensing Platform for Efficient Information Gathering for Smart Cities
		環境に設置した Wi-Fi 機器を用いた導入容易な屋外コンテキスト認識手法
	IOT	情報基盤運用管理の効率化と改善に関する研究
大規模ネットワーク環境における高速なログ解析基盤と異常検知に関する研究		
SPT	Privacy-Preserving Recommender System Joining Profiles and Records Among Organizations	
	ネットワーク接続され組込みシステムの拡張性に関する研究	
CDS	Estimation of Personal Factors affecting Purchasing Behavior and Its Application	
	フランチャイズ店舗向け電力ティスアグリケーション方式に関する研究	

メディア知能情報領域	NL	Automatic English Vocabulary Question Generation for Efficient Measurement of Lerner Proficiency
		Neural Approaches for Syntactic and Semantic Analysis
	CVM	Light Transport Acquisition via Selective Light Path Measurement
		A Novel Catadioptric Ray-Pixel Camera Model and its application to 3D Reconstruction
	CH	市民参加型史料研究のためのデジタル人文学基礎の構築
	SLP	聴覚計算理論に基づく音声了解度の客観評価指標
		Intelligent Middleware for Healthy Motion Gaming
	GI	ゲーム木探索における知識の獲得とその評価
		A Study on Learning Algorithms of Value and Policy Functions in Hex

表 10 から分かるように、研究会によって何本か博士論文推薦論文が決まることもある。また、最近では英文論文が増えていることが分かる。ここでは、各博士論文の学位取得大学や研究背景と問題点および貢献について簡単に述べられており、研究会からの推薦文が書かれている。また、キーとなるものの画像が示されているので、これから博士論文を取得する大学院生にとって非常に参考になる。

5. おわりに

情報処理学会の研究会と研究傾向についてコンピュータと教育研究会が行い、筆者が参加してきた研究会とシンポジウムを中心に研究内容について述べた。査読なしの研究会論文と査読付きのシンポジウム論文とは異なる面もあるが、研究会で発表した内容を煮詰めて、発表会で出されたコメントを取り入れてシンポジウムの論文として投稿する論文が多い。研究会では発表 20 分に対し 10 分間の質疑応答があり、様々なコメントが寄せられる。特に CE 研究会では、非常に好意的なコメントが寄せられる。これらのコメントを参考にして、よりよい論文にまとめてゆくことが可能となる。博士論文は、情報処理学会会員の先生方と企業の研究所の指導によって提出されたものなので、現在の研究動向を見るには非常に参考になる。今後とも、これらの調査研究を続けてゆくつもりである。

謝辞と

本研究の一部は、情報科学研究所研究助成によるものである。

参考文献

- (1) 情報処理学会
<https://www.ipsj.or.jp/> (2019.9.5 参照)
- (2) 情報処理研究会
<https://www.ipsj.or.jp/kenyukai/kenyukai.html> (2019.9.7 参照)
- (3) コンピュータと教育研究会
<https://ce.eplang.jp/> (2019.9.11 参照)
- (4) FIT 情報科学技術フォーラム
<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit.html> (2019.9.20 参照)
- (5) 水野和寿代、研究会推薦博士論文速報、情報処理、Vol.60、No.9、pp.868-883、情報処理学会 (2019.10)